

竹取新聞

株式会社 カグヤ

東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階

第48版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念をカグヤクルーの日々の出来事からの内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

まるごと学ぶ



ドイツ・ミュンヘンの園。

も様々な二〇名です。同じ施設を見学していても、それぞれ観点が異なるので、見学を振り返る勉強会では、更に気づきや学びが深まるものとなりました。

参加された先生からは、「園の代表として参加しているので、一つでも多く学んで帰りたい!」と写真やメモを取ったり、見学先の先生に通訳を通して質問されるなど、研修での学びを子どもたちの保育に還元しようとする姿がありました。

六月にドイツヘギビングツリー主催のドイツ保育園境視察研修に行つて参りました。

研修では、全国各地二〇名の先生方と、一週間ドイツの保育園、学童などの施設を見学し、保育環境について学んできました。

研修は今年で十一回目となりますが、参加者の中には過去に何度も参加したことのある方、二年連続で参加される方もおられました。園長から保育士、建築士といった、役職や職種、年齢



参加者同士で見学を振り返る勉強会。



園で頂いたおもてなし。

この研修では、園の保育の様子を見学するだけでなく、見学先の園でのおもてなし、ドイツの食事やビール、街中での買い物、参加者同士の勉強会など、見るだけでなく、現地で体験し体感したことを、まるごと学びとして参加者が持ち帰る研修となりました。

研修後、参加者のお一人が、「日本の保育環境を『そもそもこの環境は、子どもにとってどんな意味があるのか』という問いを持って見直し、そのことを普段から職員間で話し合っている」とおっしゃり、自園

の報告会で早速時間を設けていました。

また先日は、前年度ドイツ研修に参加した園の先生方が集まり、公開保育、同窓会が行われました。それぞれがドイツで学び、自園で実践していることをお互いに報告し合う場になっていました。

一週間の研修はあっという間ですが、帰国後に研修や勉強会で会い、お互いに情報交換する等、ドイツで出逢った参加者の学びは今でも続いています。

見て、聞いて、感じる研修は保育が更に楽しく、早く子どもたちに会いたい、先生方と共有したいと感じる研修となりました。今回、ドイツ研修で学んだことをそれぞれが現場で実践し、一年後、同窓会の席で互いに報告をし合えるよう、先生方と共に保育を学んでいきたいと思っています。

本気の環境作り

先日、秋田県秋田市にある、あきたチャイルド園様へお伺いしました。

園長の澤口先生とは三年前にドイツ保育園環境視察研修で一緒に過ごしましたが、園へは今回初めてお伺いしました。見学させて頂く前、澤口先生から園舎の設計についてお聞きしました。その言葉の一つが「子どもたちの〇〇を大切にしたい」と目的を持ち、楽しそうに嬉しそうに話される姿がとても印象的でした。口の字型の平屋園舎の真ん中は、



木陰が気持ちのいい活動の場を生んでいます。

設計士の方と四〇施設以上の園を見学しアイデアを練り続けられたそうです。その行動力と本気さが職員の皆様にも伝わり、素敵な園を創られているのだと思います。

私たちクルーも行動力と本気を大切に歩んでいきたいと思っています。

CCN

Caguya Company News

カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。



上：日本に届くドイツCCN
下：昼食を頬張る様子

先月クルーが二名、ドイツ保育環境視察研修に参加しました。カグヤでは、毎日の出来事をニュース（CCN）として社内配信していますが、このドイツ研修中は、日本とドイツの双方でニュース配信

ドイツCCN



ぶっくりとした小麦



福岡農園での小麦の収穫。

小麦の収穫

昨春秋、カグヤの福岡農園、各クルーの自宅に蒔いた小麦が、ついに収穫の日を迎えました。

無農薬、不耕起で見守り、肥料を与えたわけではないのに、ぶっくりと穂のついた小麦ができました。

ここに至るまで、小麦が自らで芽を出し、葉を広げ、穂をつけていく様子に立ち合ってきました。

小麦、そして自然の力に感謝しながら、皆で美味しく頂きたいと思います！

三〇年もの



いよいよ今年新しい消火器に交換予定です。

先日、社内でも最も古いものを発見しました。

毎年、社内の消火器の性能検査を行っているのですが、ある消火器の設置年数を確認すると、なんと：一九八三年生まれ。この消火器が誕生してから三〇年が経っていました。

三〇年間、一度も使われることなく、私たちを見守ってくれた証です。よくぞ、ここまで守ってくれました。

取り巻く見守りに感謝の気持ちで行っていました。

見学先の園の様子、ドイツの街並み、現地で頂いたプレッツェルやドイツビールまで：心ときめいた写真や気付きがリアルタイムで届きます。クルーの顔が映った写真は、特に楽しみにしていました。

国も生活も違う環境にいても、お互いの体験した

ことを一緒に味わうことができて

るCCNは、愛

しい大切な場

になっていま



美しい街並みをパチリ！

新・食器用洗剤

より環境に優しい食器用洗剤はないか探し、先日新しいものに変えました。

不自然なものでなく、身体に優

い食べ物や飲み物を大事にしてい

ますが、口にする物だけでなく、食

もこの気持ちを大事にしています。

会社でもクルーの自宅でも、環

境への負担が少ない天然油脂が主原料

一期一会庵

木鶏の実践

先日、人間学の本「致知」の社員の方が来社され、一緒に「社内木鶏会」というものを行いました。

この中の「木鶏」という言葉は、中国の「莊子」の故事の言葉で、「まるで木製の鶏のように少しも動じない最強の闘鶏のこと」を指します。そこから転じて、強さを秘め、敵に対してまったく動じないことなどを今では用いられています。

そして「社内木鶏会」というのは、この人間学の本「致知」を購読し、毎月一度人間学を皆で学び合い、語り合う時間を持つこととお互いの人間性を高め、共に自らを磨いて木鶏になろうという取り組みのことです。

私たちも、六年半前より毎月一度は必ず

全員で「社内木鶏会」を行っています。

私たちが取り組み始めた頃は二〇社ほどし

かなかつたものが今ではなんと八〇〇社を超

えているようです。

最終目標は一〇、〇〇〇社というくらいで

の洗剤を使っています。自然とともに生き、自然から「全てのものは一つである」ということを教えているので、自分たちが出したものは必ず自分たちへ還ってくると思っています。

自分のところ

で不自然を生み

出さない生き方

をしていきたい

と思っています。



新しく仲間入りした洗剤

すから、致知の皆様は高い目標に日夜挑戦なさっているようです。そう考えてみると、動じなくなるといえるのは崇高な理念と目標、長い年月の体験と深い内省が必要な気がします。信じて待つと新たな実践が次々に増えていきますが、「木鶏」を目指して今後も取り組んでいきたいと思っています。

今後致知に見習い、皆様に還元できるものを一つでも多く実践から提案していきたいと思っています。

編集後記

今月も竹取新聞をご覧頂きまして、誠にありがとうございます。

裏面CCN記事では、社内環境や実践の進化を掲載致しました。現状に留まらず、常に改善意識を忘れずにいたいと思っています。

来月弊社では「夏季休暇」を「夏季実践休暇」と名前を改め、自らの夢と関連する研究テーマを持って実践を行う休暇へと進化できたらと考えています。

例年になく猛暑ですが、皆様どうぞご

自愛くださいませ。

カグヤは「子ども第一主義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。